

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第9号

ピーマンの害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

ヒラズハナアザミウマの発生が増加し、被害果実も確認されています。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況

(1) 県では注意報5号（令和元年11月25日付）を発表し、ヒラズハナアザミウマに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、3月中旬に実施した巡回調査の結果、11月中旬巡回調査時より10花当たり虫数及び寄生花率が高まっている。

また、一部場ではヒラズハナアザミウマによる被害果実の発生が確認されている。

(2) 3月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は72.8%（前年66.6%、平年49.4%）で平年より多、10花当たり虫数は37.4頭（前年9.4頭、平年10.9頭）で平年より多、寄生花率は50.9%（前年27.0%、平年22.3%）で平年より多となっている（図1～4）。

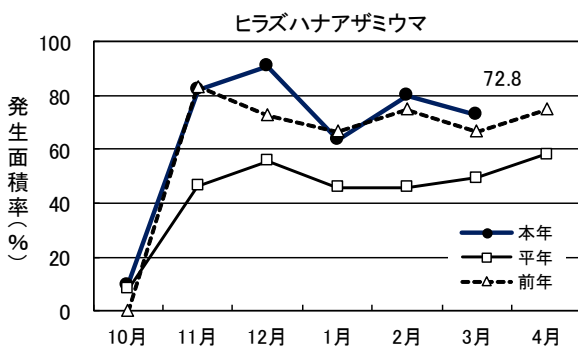


図1 発生面積率の推移

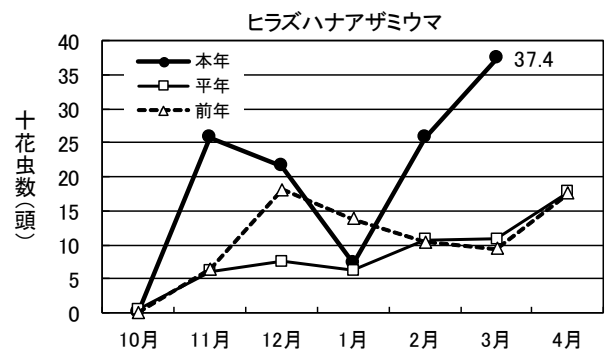


図2 10花当たり虫数の推移

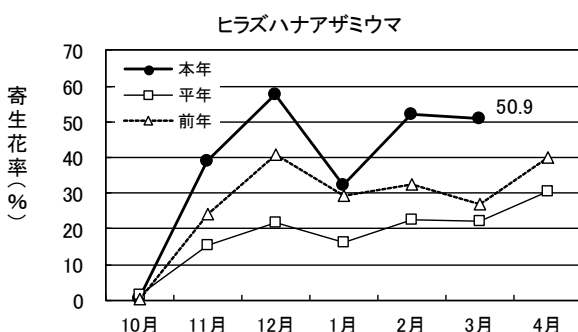


図3 寄生花率の推移



図4 ヒラズハナアザミウマが寄生する様子

4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
 - 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
幼虫に対してジアミド系およびIGR系の薬剤が有効である。
 - 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
 - 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
 - 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 黒木・松浦
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp